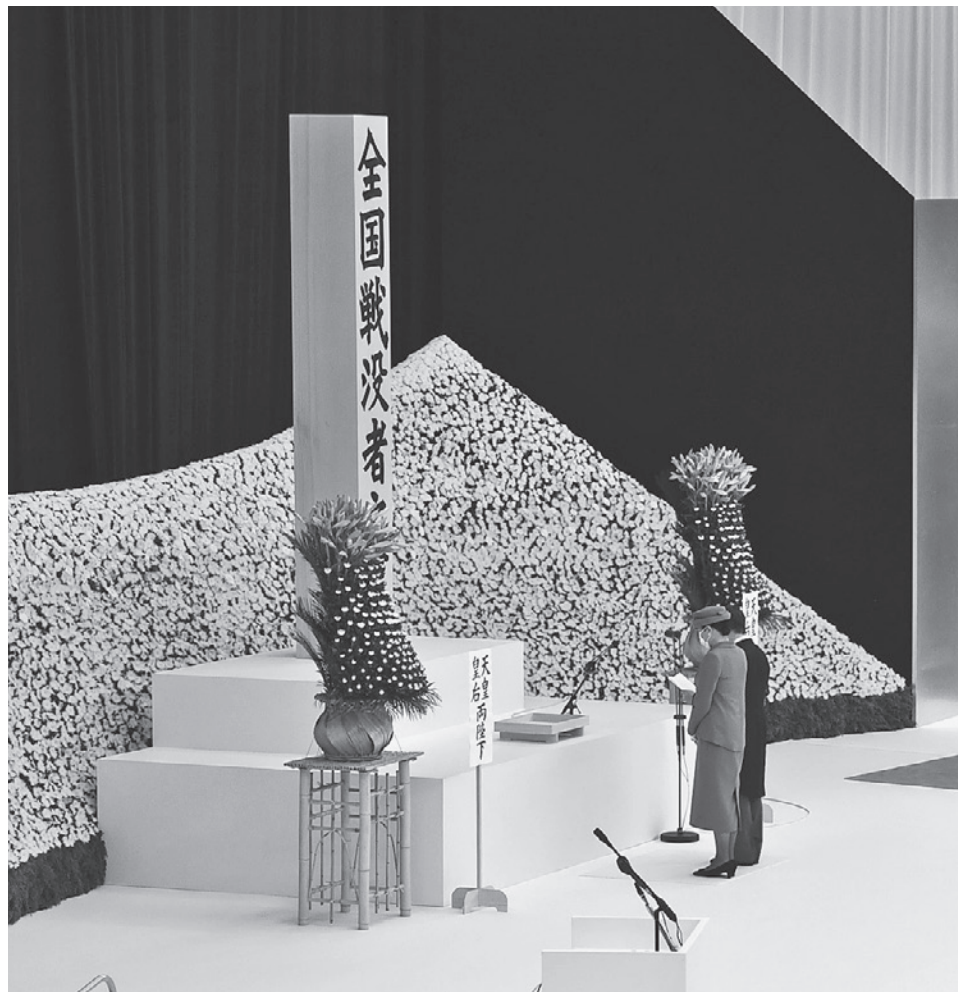




全国戦没者追悼式



一般財団法人
徳島県遺族会

会報

発行所
徳島市雑賀町
東開21番地1
一般財団法人
徳島県遺族会
TEL (088) 636-3212
FAX (088) 636-3213
<http://izokukai.jp/>
発行責任者
坂千代 克彦
印刷
グランド印刷㈱

終戦七十七年を迎えた八月十五日、政府主催の全国戦没者追悼式が東京都千代田区の日本武道館で開かれた。

追悼式には天皇、皇后両陛下をはじめ、岸田文雄内閣総理大臣、衆参両院議長、最高裁長官など各界代表、全国の戦没者遺族など約千人が参列した。岸田総理の式辞の後、正午の時報を合図に参列者全員で黙とうをささげた。

天皇陛下のお言葉を賜ったのち、衆議院議長、参議院議長及び最高裁判所長官、遺族代表として大月健一(八十二才)さん、岡山県高梁市Ⅱが追悼の辞を述べた。

最後に参列者代表が式壇に献花を行った。本県代表としては、徳島県遺族会の坂千代克彦会長および徳島県災遺族会的美馬秀夫会長が献花を行った。

本会からの遺族代表参列は三年ぶり、徳島県の参列団員は十三名であったが、参加いただいた本県遺族は、御英霊や戦禍で命を奪われた肉親を慰霊し、追悼の誠を捧げた。

天皇陛下おことば

令和四年八月十五日(月)日本武道館
全国戦没者追悼式

本日、「戦没者を追悼し平和を祈念する日」に当たり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦において、かけがえのない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。

終戦以来七十七年、人々のためみない努力により、今日の我が国の平和と繁栄が築き上げられました。多くの苦難に満ちた国民の歩みを思うとき、誠に感慨深いものがあります。私たちは今、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による様々な困難に直面していますが、私たち皆が心を一つにし、力を合わせてこの難しい状況を乗り越え、今後とも、人々の幸せと平和を希求し続けていくことを心から願います。

ここに、戦後の長きにわたる平和な歲月に思いを致しつつ、過去を顧み、深い反省の上に立って、再び戦争の惨禍が繰り返されぬことを切に願ひ、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対し、全国民と共に、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります。

語り部事業のご案内 (護国神社参集殿で開催)

- 第74回 9月10日(土) 13:30～14:30
「徳島大空襲-東新町での体験」 森野 悦次氏(83)(徳島市)
- 第75回 10月8日(土) 13:30～14:30
「父と大東亜戦争」 水野 正則氏(90)(三好市)
- 第76回 11月12日(土) 13:30～14:30
「父からの便り-ミャンマーへの慰霊巡拝-」 清水 藤子氏(85)(勝浦郡勝浦町)
- 第77回 12月10日(土) 13:30～14:30
(沖縄戦について) 大島 和典氏(83)(香川県さぬき市)

全国戦没者追悼式

遺族代表 追悼の辞

本日ここに、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、各界代表をはじめ、全国各地から遺族の代表が集い、全国戦没者追悼式が厳粛に執り行われるに当たり、戦没者遺族を代表し、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

七十七年前、小学校一年生の私は、岡山県高梁市で母と姉と三人で終戦を迎えました。私の父は、男の子が生まれたら健一と名前を付けるようにと、妊娠中の母に告げて、中国に出征しました。父の戦友の話では、我が身の危険を顧みず懸命に戦っていたようですが、心待ちにしていた私の誕生を知ることなく、帰らぬ人となってしまいました。戦後の混乱の中で愛する家族を失った私たち遺族は、多くの困難に直面しながらも、残された家族が身を寄せ合っ

て懸命に生きてまいりました。こうした中で、一家の大黒柱とならざるを得なかった私の母は、多くの苦勞に耐えながらも、私たち姉弟を頑張っ

て育ててくれました。母には、感謝の言葉しかありません。

これは、私だけではなく、全国の多くの遺児の皆さんも同様だろうと思います。今日の我が国は、世界有数の

の経済大国となり、平和と自由を享受しておりますが、これは、国の命運を決する戦いに際して、最愛の家族の安寧を願いつつ、懐かしいふるさとに思いをはせながらも、一身を顧みず、精魂込めて戦い、散華された戦没者の犠牲の上に築かれているものであることを私たちは決して忘れてはなりません。

世界では、ロシアによるウクライナ侵攻など、未だ紛争は絶えず、今も私たちのような遺族が生まれ続けています。一日も早く平和な世界が実現するよう祈らずにはいられません。ここに私たち遺族は、戦争は遠い過去の歴史的出来事ではなく、今も身近にあることを再認識し、世界の恒久平和実現に向けて、一般市民まで犠牲となる戦争の悲惨さと平和の尊さを語り続け、継承していくことを諸霊にお誓い申し上げます。

本日は、コロナ禍にもかかわらず、ご来賓の参列のもと、かくも厳かに追悼式を挙行していただきまして、遺族を代表して心から感謝申し上げます。

結びに、ご英霊のご冥福とご参列の皆さまのご健勝とご多幸を祈念申し上げます。追悼の言葉といたします。

令和四年八月十五日
全国戦没者遺族代表 大月健一

第八回「平和作文コンクール」最優秀賞受賞作文 「武器の代わりに愛を」

東みよし町立三加茂中学校二年 福田 夏鈴さん



「如己愛人」これは、平和学習を通して私の心に深く刻まれた言葉だ。「己の如く人を愛せよ」という意味であり、この言葉を体現した一人の医師の生き様に心打たれた。

永井隆というその人は長崎で放射線物理療法の研究に取り組んでいた。当時、太平洋戦争が激しくなり、永井一家は離ればなれの暮らしが続いていた。昭和二十年六月、体の不調を感じていた博士に、余命三年の診断が下された。一日に何百人ものレントゲンを撮り、放射線を大量に浴びたことで彼の体は白血病に侵されてしまったのだ。そして、余命宣告から二ヶ月後の八月九日、長崎に原子爆弾が投下された。妻の緑さんを亡くし、二人の子どもを育てながら、博士は白血病と原爆症とも闘いながら生きていくことになる。苦しい病状の中でも彼は負傷した人々を救護することをやめなかった。そして、病床につきながらも、迫り来る死期の中で子ども達のためにできるだけ長く生きなければならぬという父としての責任感と深い愛情で十七冊の本を記した。永井博士は残りの命を、原爆の破壊力や後遺症の恐ろしさと、二度とこの過ちを犯してはならないという自分の思いを後世に残していくために捧げたのだ。

私はこの強く美しい生き方に深く感銘を受けた。そして、この思いを受け止め、自分のこれからの生き方を考えた。世界でただ一つの被爆国である私たち日本人は、平和な時代と共にその悲惨な現状を忘れてかけている。当時の様子を風化させないためにも、私たちは学び続け、伝えていかなければならない。今もこの世界では戦争が起こっている。私一人ではそれを止めることはできない。けれども、永井博士のように目の前にいる人を自分と同じように大切に思うことはできる。世界中の人たちがその思いを持てば、小さな幸福が生まれ、それは大きな平和へと広がっていくであろう。武器の代わりに愛を。永井博士の思いを胸に、まずは私から。

令和四年度「平和祈念祭」斎行

終戦から七十七年となる八月十五日、徳島県護国神社「平和祈念祭」が斎行された。恒例の「みたままつり」は縮小開催となったため、境内に提灯の掲揚はなかったものの、今年の「平和祈念祭」は三年ぶりの通常どおりの祭典となり、当日は酷暑の中、およそ百人が参列した。午前十一時、参集殿前より宮司以下祭員、来賓が社殿へ参進し、坂田宮司の祝詞奏上ののち、寺内カツコ奉賛会長、徳島県知事代理として森口浩徳保健福祉部長、徳島県遺族会長代理として上浦喜代志副会長が祭文を奏上、つづいて玉串奉奠では宮司以下、井川龍二徳島県議会副議長、岡田強徳島県隊友会長、圓藤恭久徳島県神社庁長をはじめ関係各方面よりの来賓、遺族会市郡連合会長、県下各地よりの遺族や一般参列者が玉串を捧げ、御英霊に慰霊と感謝の誠を、そして世界の恒久平和を祈念し拝礼した。また正午には参列者全員で一分間の黙祷を捧げた。

祭典終了後には境内で「天水連」による阿波踊りの奉納も行われ、コロナ禍を忘れるようなひと時となった。



徳島県戦没者遺族大会が開催される

去る八月二十四日（水）、あわぎんホール（県郷土文化会館）において、令和四年度徳島県戦没者遺族大会が四年ぶりに開催された。大会には飯泉嘉門徳島県知事（名誉大会長）、水落敏栄日本遺族会会長、杉本直樹自民党徳島県連会長、井川龍二徳島県議会副議長をはじめ、市町村長、市町村議会代表、各種関係団体の代表など二十七名のご来賓と、約三百五十名のご遺族の出席をいただいた。

本大会の開催にあたり、坂千代会長は挨拶の中で次のように述べた。

「遺族大会は、実に四年振りであり、盛会裏の開催は会員一同この上もない喜びである。衷心より、感謝をこめて、皆様に厚く御礼を申し上げる。近年、戦争の記憶が薄れていく中、戦争の

事実を語り継ぐ活動を進めている。ご遺族のご浄財によって開館できた徳島県戦没者記念館には、現在、八千百名を越える英霊のお写真が展示されている。

また毎月第二土曜日の語り部事業は、これまでに七十三回開催し、約三千六百人の方にご参加いただいた。語り部は、戦没者記念館十周年となる令和六年秋まで継続し、第百回までを目指す。

このように本会では取り組みを進めているが、さらに英霊の顕彰と、戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代に引き継ぐことが重大な使命であると考えている。ここ一年で活動が活発化してきた青年部に、しっかりと引き継げるよう重点的に進める。

青年部では、これまでに、本会、女性部

と連携を図り、取り組むことを期待している。

特別弔慰金の本旨は、「国は戦没者を忘れないこと」である。次回、特別弔慰金において、一年の生計要件等が大きく緩和されるよう、全国の遺族会と足並みを揃えていく。

大会では、遺族会への多大な貢献と功労のあった方々として、六名の会員に名誉大会長表彰（知事表彰）、二十二名の会員に会長表彰、二名の事務局職員に会長感謝状が贈られた。

また、中学生による第八回平和作文コンクール（県庁と本会の共催）の優秀作品の表彰が行われた。

本大会において、決議された決議については、下記のとおりである。

第二部においては、講師に靖国神社の山口建史宮司様をお迎えし、「靖国神社の本質」と題して誠に貴重なご講演をいただいた。来場した会員一同、一言一句を聞き漏らさぬよう熱心に拝聴し、御英霊のねむる靖国神社のありがたさ、大切さ、崇高な精神性に改めて思いをいたした。

名誉大会長表彰

美馬市 長江 廣子
三好市 西内 重文
名西郡 高田 潔
那賀郡 田中 恒弘
板野郡 井上 忠明
三好郡 長谷 邦男

美馬市 緒方 孝幸
三好市 吉岡 芳雄
三好市 石井 房子
勝浦郡 三木 一代
名西郡 森 惇夫
海部郡 高島 英生
海部郡 前谷 桂子
那賀郡 府殿 長治
那賀郡 留岡 要

徳島県護国神社例大祭のご案内
護国神社では、左記日程により恒例の「例大祭」が斎行されます。この祭典は、県下各地からご遺族やご来賓の方々のご参列をいただき、わが国の平和の礎となられたご英霊に対して、感謝と慰霊の誠を捧げる大切なお祭りです。

詳細の案内状や玉串料奉納帳等は、九月初旬に各市町村遺族会にご送付させていただきますので、お誘い合わせの上ご参拝いただきますようご案内申し上げます。

一、日時

令和四年十一月二日（水）
午前十時三十分（正午終了予定）

一、玉串料

一千元

大会決議

本日ここに令和四年度徳島県戦没者遺族大会を開催し、総力を挙げて次の各項の実現を期する。

一、世界の恒久平和を目指し、戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代に語り継ぐこと。

一、総理、閣僚及び国会議員等の靖国神社参拝の定着をはかること。

一、戦没者遺族に対する処遇は、国家補償の理念に基づき改善すること。

一、特別弔慰金は、生計関係を受給要件としないよう改善すること。

一、慰霊友好親善事業の充実と遺骨収集の拡充強化をはかること。

一、組織の強化・存続を図るため、青年部の育成を積極的に推進すること。

以上、決議する。

令和四年八月二十四日
令和四年度徳島県戦没者遺族大会



お問合せ 徳島県護国神社社務所
電話 088 (669) 3090

*一般参拝者用駐車場は、台数に限りがございますので、なるべく乗り合わせていただくか他の交通機関にてご参拝下さい。

兵庫県姫路護国神社参拝と千羽づる奉納
日帰りバスツアー

11月20日(日)

徳島県護国神社 = 松茂とくとくターミナル =
8:30 8:50 9:00
= 姫路護国神社 千羽づる奉納 =
11:00 11:50
= 和ダイニング三日潮(昼食) =
12:00 12:50
= 姫路城 城内の散策 =
13:00 14:30
※バス乗車のまま観光
= 姫路セントラルパーク(サファリ) =
15:00 16:00
= トイレ休憩 = 徳島県護国神社
18:00

令和四年度

千羽づる奉納旅行 参加者の募集

遺族会会員をはじめ、会員以外の方も参加可能
今年は姫路へ！

実施日程 令和四年十一月二十日(日)

参加費用 遺族会会員 五千円
同伴する会員家族(成年) 三千円
同伴する会員家族(未成年者) 二千円
会員家族のみ 五千円
一般参加者 一万五千円

募集人員 四十名(最小催行人員十五名)

締切期限 令和四年十月二十一日(金)

お申込先 徳島県遺族会事務局

電話 088-636-3212

第十三回特別企画展

「沖縄戦を語り継ぐ」の開催結果

徳島県戦没者記念館では、七月三日(日)から八月三十一日(水)までの間、第十三回特別企画展「沖縄戦を語り継ぐー戦史とひめゆり学徒ー」を開催しました。沖縄戦は市民を巻き込んだ戦いであり、現下の国際情勢を見ても、戦争の悲惨さ、平和の大切さを改めて考えて頂きたい、そんな思いを込めての企画展でありました。

展示内容は、沖縄の戦史やひめゆり学徒を紹介するパネル、沖縄から残された御家族に送られてきた英霊のお手紙、摩文仁の丘にある「徳島の塔」での慰霊祭、また、沖縄戦を記した書籍や児童書、証言DVDなど約百点。



開催期間は、今年が沖縄の本土復帰五十周年の年であり、コロナ禍のため沖縄への修学旅行が中止になった生徒さんにも見てもらいたいと思

いから、夏休みを含む約二か月の長期間といたしました。

期間中は約一千五百人の方々に越えたいだき、特に家族連れや、友達連れの小中学生など、若い世代の方々にも沢山おいでいただきました。中には、数時間にわたり熱心に見学される方もいて、関心の高さを感じました。

このような方が少しずつでも増えていくことを期待し、今後とも出来るだけ工夫を凝らした特別企画展を考えて参りたいと思います。

ホームページ随時更新中!!

(R4.8.31 現在)

アクセス数 128,986

各種行事、記念館の語り部事業、慰霊巡拝等の最新の情報をお知らせしています。
携帯・パソコンで

徳島県遺族会 もしくは
徳島県戦没者記念館 と入力

ホームページのアドレス
URL <http://izokukai.jp/>

携帯電話のバーコードリーダーで右記QRコードを読み込んで下さい。



報告

ウクライナへの
支援金について

本年二月二十四日からのロシアによるウクライナへの軍事侵攻については、約半年が過ぎた現在も終息する見込みは無い。

本会では、三月二十五日の第二十六回理事会において、ウクライナ支援募金を拠出することが決定され、具体的な手続きは、会長に一任されたところである。その後、日本遺族会に手続き等の調査を行ったところ、本会の趣旨に日遺も賛同し、また、手続きは本会独自で行うべきとの回答を得たところである。その後、七月九日の本会正副会長会での議を経て、七月十一日に日本赤十字社の寄付金窓口に十万円を入金し、支援金をウクライナに届けたところである。

語り部事業講演要旨

●第71回語り部事業 6月19日(日)

「父の戦没地セブ島(フィリピン)への慰霊巡拝」

阿南市 松原 良明氏(78)



私が平成25年3月7日からの7日間、父の戦没地、フィリピン慰霊友好親善事業に参加した体験をお話しします。

出発日の前日、靖国神社に参集し、結団式を行い、成田空港近くのホテルへ移動、日本遺族会主催の壮行会を行いました。3月7日マニラ到着後、総員87名が6つの班に分かれ、各目的地へ向かいました。私たちの班は、セブ島・レイテ島慰霊団で団員が一番多く、マニラから空路セブ島へ向かいました。3月8日早朝、ホテルの前庭の大きなセブ観音さんにお参りしてから、ダホール海峡の海辺で個人慰霊祭を行い、次に私の父が眠っているであろうカルメンから山の奥深く入り、ギママという所に向かい、そこで慰霊祭を行いました。その時父に宛てた追悼文を心を込めて読み上げました。

「お父さん 遅くなりましたが、ついにここセブ島へ参りました。

私は、昭和18年10月30日生まれ、69才でまもなく古希を迎えます。しかし、残念なことに、あなたの顔は写真でしか認識がありません。

あなたの兄弟4人も出征しました。二人は戦死、あと一人は戦病死、残り一人だけ戦地から帰りましたが、去る平成5年に他界しました。母は92才で足は少し弱ってききましたが至って元気です。この度も母から『私の元気な内には是非セブ島へ行って慰霊をしてきて欲しい』との熱い気持ちからこの地に参りました。また、18年前には50回忌の法要も済ませました。

お墓も修復しました。靖国神社にも何回も会いに行きました。徳島県護国神社での5月3日の命日祭には欠かさずお参りをしております。私も微力ではありますが、徳島県遺族会、阿南市遺族連合会、そして富岡遺族会の役員として、英霊顕彰のためにお世話をさせて戴いております。昭和41年に妻をめとり、2人の娘と、4人の孫と一緒に楽しく過ごしております。母に託された、自家製の米と、門かぶりの松の葉と、裏庭のうまめの葉と、井戸から汲み上げた地下水と、お酒を少しずつ持ってきました。故郷の香りをお届けします。

あなたの生まれ育った故郷は大きく発展しました。人口も増え、工場も勢いが有り、多くの施設も整い、産業、交通、環境も充実し、整備されております。

そして、緑の山と、清き那賀川の清流と、実りの田んぼと、紺碧の淡島海岸はゆったりと時を刻んでいます。ご安心下さい。

幸いなことに日本はこの半世紀以上の永い間、戦争のない平和な時代を過ごして参りましたが、これ一重に英霊の尊い献身と犠牲のうえに培われたことを決して忘れず、この平和で美しい郷土を子供の代、孫の代にと永代

までも護り伝えて行かなければならないと決意をしております。

平和を謳歌する時代にこそ幾多の国難に殉じた英霊におこたえすることが大切であります。

ここに私達は英霊のご遺志を継承し、その尊い戒めをもって悲惨な戦争が決して人々に繁栄をもたらさないことを世界の国々に伝え、世界の人々と相携え、すべてを破壊する愚かな戦争をしない歴史をつくることに努力を重ね精進を続けて参ります。

お父さんありがとう。安らかに眠り下さい。

そして、見守って下さい。」

激しい戦いをしたであろう山や谷を見つめていると、なんでこんな山の中で死ななければいけなかったのか。もう少し、早く会いに来たら良かった、と思いました。その後、皆で「ふるさと」の歌を捧げました。みんなで歌いながら涙が止まりませんでした。

3月9日は2ヶ所で慰霊祭。最初は小学校の校庭を借り、次はタラガス川という広い川の河川敷で行いました。多くの子供さんと、その家族の皆さん約100人位が、遠巻きにして祭礼を見守ってくれました。

3月10日オルモックの山の中では、はるかかなたの激戦地を眺める所に4本柱と屋根のみで、それを木の柵で囲った木製の慰霊碑がありました。「第一師団戦没者慰霊碑 第一師団レイテ会と玉の会」の標識がありました。そこで慰霊祭を行いました。

3月11日、ヒブカワン小学校を親善訪問し、参加者の思いを込めた文房具や衣類が一杯詰まったお土産を渡しました。その後、レッドビーチへ行き、マルコス大統領が建立したという、マッカーサー元帥が6人の兵士と共に上陸した時の勇ましい格好の銅像を見に行きました。

3月12日はすべての団員がカリラヤにあるフィリピン島戦没者の碑の前で全戦没者追悼式を行いました。翌日、最終日マニラ市内を視察して、空路夕刻の成田に無事に帰って解散しました。

帰宅後、直ちに心待ちにしていた母に細かく報告した後で、お墓の前でも、時間を掛けて遠き父親に語りかけました。

この度の7日間におけるフィリピン慰霊友好親善事業訪問におきまして、全日程を心のこもる企画とお世話をいただいた皆さんや、そして何よりも私どもを暖かく迎えていただいたフィリピンの子ども達を含めたフィリピン国民の皆さんに対しまして、心からお礼を申し上げたいと思います。

最後に、私たちは英霊のご遺志を継承して、その尊い戒めをもって、すべてを破壊する愚かな戦争をしない歴史をつくることに努力を重ね精進を続けて参ることを、英霊の戦地で約束をして参りました。私も今後とも微力ではありますが地域の遺族会の発展のために多くの皆さんとご一緒に努力をして参りたいと思います。

語り部事業講演要旨

●第72回語り部事業 7月9日(土)

「御英霊への思い－英霊から教わったこと－」

東京都 平松 なりみ氏



私の2人の叔父はニューギニアと沖縄で戦死しました。英霊の母である祖母は「庭でゴザの上に豆を並べて乾かしていたら、見たことない大きな大きな鳥がやって来て豆を散らかして飛んで行った。『偵(英霊の名前)は酉年やったなあ』と胸騒ぎがし、程なく戦死公報が入った。わしに会いに来たんやなあ。」と話していました。また、母屋にやってくるトントントンという足音に「あ、偵が帰ってきた!」と玄関に行き、「郵便屋さんやったわ。」と戻ってきた事も何度かありました。その時の祖母の姿は、幼心に可哀想に思えました。

終戦の日に九段の千鳥ヶ淵で生還された方に「兵籍簿、軍歴簿を取り寄せて靖国の偕行文庫に行くのがいい。」と教えられました。早速取り寄せてみると、叔父が召集されてから戦死までの4年余の間の足取りを知る事が出来ました。偕行文庫の方に「ニューギニアの兵站病院で亡くなり、この頃は土に埋めてもらいお経をあげてもらっているはずですよ。」と教えられました。「『偵は、弾に当たってジャングルで1人で痛い思いで死んだ』と思い込んでいた祖母に伝えてあげたかった。軍歴簿のことを早く知って行動できていたら。」と悔しさを感じ、それがきっかけで、なお英霊のことを知りたいと思うようになりました。

もう1人の叔父は、沖縄で既に壊滅状態だった軍の「足腰の立つものは斬り込みせよ」という命令により糸満市の真栄平で果てたと知りました。事実上の沖縄戦は終結していた中での戦死に虚しさが湧いてきました。徳島県遺族会の濱さんとは、沖縄慰霊親睦会で「父は安謝方面で戦死したこと、古賀隊にいたことくらいしか分からない」という会話の出会いでした。命を差し出せと召集しながら大雑把で無責任な国の通知に「ほおっておけない」と思い、濱さんが東京に来られた際に一緒に偕行文庫に行きました。「海上特攻の秘匿部隊マルレにいた」「勲章をもらっていた」と分かりました。「国会図書館」「国立公文書館」「内閣府沖縄資料閲覧室」等に足を運び、記録をつなげていくと点と点が線になり、線と線で面にな

り、色々わかりました。

他に「沖縄県南部で戦死」としか分からず、摩文仁の平和の礎に記録されてない父親の事を「もしかしたら脱走したから、軍規を犯したから記録されてないのでは。」という方がおられました。また「ほっておけなくなり」、内閣の沖縄資料閲覧室や沖縄の方の協力を得て、77年ぶりに死没地・死因の詳細が判明。「本籍も家族の名前も一致、この記録は父親だ。即死だったんだ。」とその方の言葉に一緒に泣いてしまいました。

他に心を打たれた遺骨の引き渡し式は、初めて「海上自衛隊の護衛艦」がガダルカナル島まで御英霊を迎えに行き、旅客室の祭壇に安置されての帰国でした。出航時にガダルカナル島に向かって捧げ銃、着剣、奏楽とともに、弔銃発射。領海に入ると司令艦長が「日本の海に入りましたよ。」と献花され、横須賀入港。白い手袋の隊員に大事に抱かれた白木の箱が日本の地を踏みました。地上でも「着剣捧げ銃」、自衛隊の皆様が整列し、御遺骨に「最上級の敬礼」をしてくださいました。白木の箱が部隊の前を通る時、儀仗隊長の「おかえりなさい。」の大きな声、「海ゆかば」の奏楽。御遺骨には聞こえていたと思います。「おかえりなさい!生まれ育った日本、命を懸けて守ろうとした日本、帰りたい日本に帰って来ることができましたね、おかえりなさい!」私はただ涙が溢れるばかりで感謝しかありませんでした。

御英霊のことを詳しくご存知ない方は、必ず何かに辿り着けると思うので調べてあげてほしいと思います。矢弾糧物が尽きる中で、果敢に戦った御英霊が、国を占領されない為、残る家族達を護る為、後世の私達の未来を守る為に魂を懸けた思いを汲み取ってあげてほしいと思います。

生まれた時代に「たまたま戦争があった」というだけで、時代に巻き込まれ、命を懸けるほどの苦勞をしなければならなかった、生きる事を選べなかった多くの御英霊の事を思うと、「自殺は絶対にしてはいけない行為」です。戦禍に倒れた方々の背中には「命はかけがえがない」「人の為に、世の中の為に生きる事」「平和を維持する事」に尊厳を持つ事を、後世の私達に「生きた教育」として残してくれたと思います。遺族会とは、このことを伝えられる大事な会だと思います。

地方だより

令和四年度 東みよし町戦没者追悼慰霊祭

東みよし町戦没者追悼慰霊祭が令和四年五月三十一日に東みよし町役場多目的ホールにおいて執り行われました。昨年度より新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、規模を縮小し、各地区の遺族会の代表者二十二名が参列し、戦没者一千十九柱の御霊の冥福を祈りました。

始めに参列者全員で黙祷を捧げ、東みよし町長の式辞のあと、町遺族連合会山口博視会長から「平和の尊さを常に肝に銘じ、二度と悲惨な歴史を繰り返さないためにも戦争を知らない若い世代に語り継がなければならぬ。終戦から七十七年が経過し、戦没者に対する感謝の念も彼方に追いやられそうだが、英霊顕彰と福祉の向上に邁進することをお誓い申し上げる。」と追悼のことが述べられ、再び悲しみの歴史を繰り返すことのないように改めて心に誓いました。

その後御来賓より献花と追悼のことがばの後に、参列者一人ひとりが祭壇に献花を行い戦没者の霊を慰めました。

東みよし町遺族連合会



上板町遺族会松島地区「忠魂碑」

再建竣工・新名称「平和の礎」除幕式

上板町遺族会松島地区の忠魂碑は、このたび名称を「平和の礎」とし、再建竣工されました。令和四年八月十五日の除幕式は、遺族会吉田会長の式辞ではじまり、松田上板町長の祝辞に続き、除幕が行われました。除幕は松田町長、吉田会長、岡田遺族会役員、岡田役員のお孫さん将睦君（小三）、朋花ちゃん（小一）の五名がロープを引き、平和を象徴するような見事な幕開けで、除幕式は無事終了いたしました。参加人数は三十七名でした。

式後には、例年開催している上板町遺族会主催の戦没者追悼式を、松島地区（十一時）、高志地区（十一時三十分）、大山地区（十二時）の三ヶ所で斎行しました。松田町長、吉田会長から献花と追悼の言葉が捧げられました。三地区の延べ参加人数は六十七名でした。

次号に、忠魂碑の再建の経緯を掲載します。

上板町遺族会



特別弔慰金の申請は

『令和五年三月』までに！

「第十一回戦没者等の遺族に対する特別弔慰金」の申請は、各市町村の援護担当課で受付中です。

《請求期限》 令和五年三月三十一日

百歳のお慶び

中川 リエコさん（那賀町）



令和4年8月12日、那賀町鷺敷地区の中川リエコさんが百歳を迎えられました。お祝い状と、記念品をお届けしました。

中川さんは長年農業に励まれ息子さん達を育てながら、忙しい時でも遺族会の行事・活動には参加し協力していただきました。

現在は、町内の施設に入所されており、コロナ禍のため家族の方とも面会ができませんが、とても元気に過ごされているそうです。

これからもご健康で過ごされますよう心からお祈り申し上げます。

鷺敷地区遺族会会長 亀代 高男

橋本 ハナ子さん（三好市）



三好市三野町の橋本ハナ子様、令和4年8月1日に百歳のお誕生日を迎えられました。橋本さんは4男3女の7人兄弟でしたが、上から3人の兄を戦争で亡くしました。

20歳で結婚され三野町では夫と牛乳販売を中心に雑貨店を営んでおられました。酪農家として夫婦で、後には息子夫婦と共に乳牛の飼育を生業ともしました。

3男1女の子宝に恵まれ、各々立派に育てあげ、現在は孫8人、ひ孫10人、しゃしゃら孫2人の大勢の家族に親われております。

令和元年8月から施設に入所しておられます。当日はコロナ感染防止対策を万全にして、施設のはからいで、お祝い会が開かれました。県知事代理、三好市長も出席して祝福をされておりました。徳島県、三好市、三野町遺族会から祝い状、記念品、祝い金、花束を贈呈しお祝いいました。

花束を抱き、にっこり笑顔をつくり、記念写真を撮っておられました。最後には用意してきた原稿を読まず、堂々とお礼の挨拶をされました。施設から日常の出来事を家族に、孫達にも受験勉強の激励など手紙を毎日書いておられるそうです。

性格は明るく、いつも前向きな笑顔があつて、友達も多く、社交的で、色々なグループではリーダー的な存在だそうです。

施設では食欲も旺盛で、体操、ぬり絵、折り紙、趣味のカラオケ、読書を楽しまれております。これからも元気で過ごされますようご祈念申し上げます。

三野町遺族会会長 西内 重文

英霊にこたえる会 全国統一行動の街宣活動

英霊にこたえる会徳島県本部は、毎年八月十五日までに全県下にて、遺族会会員の協力のもと、靖国神社公式参拝のための街宣活動を実施している。徳島市支部においては、毎年八月の第一日曜日に実施しており、今年は八月七日(日)午前十時から徳島繊維団地(徳島市問屋町)にて「靖

財務規律の徹底

昨年度の全国戦没者追悼式は、コロナ禍で最終的に本会は不参加となりましたが、事務的遅延から旅行キャンセル料が発生し、評議員からも厳に御指摘を受けております。今後は、財政状況厳しき折、さらに財務規律の徹底を行って参ります。(本会事務局)

第26回参議院議員通常選挙の結果について

「大変厳しい状況下での選挙戦でした。皆様の温かい取り組みに心から感謝申し上げます。」

第二十六回参議院議員通常選挙は、去る七月十日に投票が行われた。今回も合区で行われた「徳島・高知選挙区」においては、中西祐介氏が見事、三回目の当選を果たした。

自民党は全体では六十四議席確保と圧勝であったが、比例代表においては、改選前から一議席減らして十八議席に留まり、日本遺族会の水落敏栄会長は、八万二千九百二十票で二十三位と落選した。

投票日以降、本会宛に、水落敏栄事務所や日本遺族政治連盟幹部から「今回の選挙結果についてはお詫びを申し上げます」とともに、徳島県遺族会の今回の努力に御礼を申し上げる。今後とも遺族会活動に努力して参りたい。」との連絡が相次いだ。

今回は、四月二十三日の役員等研修会、六月十八日の水落敏栄会長激励会に水落会長本人が来県し、直接遺族会会員に話を行うとともに、選挙

戦没者記念館だより — 写真展示数 8,144 柱 (R4.8.31 現在) —

来館者のお声

- 22年前に1人で沖縄の戦跡を巡った事があり、ひめゆりだった方と話をしたのですが、その時は私もまだ若く想像がつかない部分もありました。年を重ね、物事も広く見えたり感じたりできるようになって、今、わかるようになりました。今、世界で起こっていることは77年前、沖縄で起こった事です。今なお、人類は進歩せず、同じ過ちを繰り返し、同じ悲しみを与えているのだと思います。せめて、このような事実が今もあり、77年前もあったということを感じられる人間でいたいと思います。(40代男性)
- 薄れゆく戦争の記憶を鮮明にしたいと思い訪れた。孫たちに伝えたいと思い資料を拝見した。忘れてはならない戦争の記録です。多くの若い人に見て欲しいです。(80代女性)
- やはり戦争はいけない。若者が多く死ぬのは耐え難い。亡くなった方々を大切にしていけることは大変重要なことだと思う。その方たちの上に今の平和があることを知る必要がある。(60代男性)
- 遺影の前に立ち、思わず込み上げてくるものがありました。お一人お一人にあったはずの人生が、途中で断たれてしまう・・・戦争は本当に悲惨なことだと思います。遠い過去の事ではなく、今も、戦争を起こさないよう、私達が考えていかねばならないと強く思いました。(50代女性)
- 戦争を二度と繰り返さないため、記憶を風化させてはならない。引き継ぐ事ができればと思い、来させて頂きました。平和の為に何か役立つことが出来れば幸いです。(40代女性)

遺族会の動き

令和四年七月～八月実施行事

(七月)

3日～8月末 特別企画展(戦没者記念館)

9日 正副会長会議(護国神社)

9日 語り部事業(護国神社)

(八月)

6日 みたま祭神事(護国神社)

7日 英霊にこたえる会街宣活動(繊維団地)

13日 語り部事業(護国神社)

14日～15日 全国戦没者追悼式(日本武道館)

15日 平和祈念祭(護国神社)

24日 徳島県戦没者遺族大会(あわぎんホール)

令和四年九月～十一月行事予定

(九月)

10日 正副会長会議(護国神社)

10日 語り部事業(護国神社)

12日 日本遺族会75周年記念事業(東京)

21日～22日 英霊にこたえる会中四ブロック会議(香川県善通寺市)

25日 高知県青年部との交流会(高知市)

28日 神恩感謝祭(護国神社)

(十月)

8日 語り部事業(護国神社)

(十一月)

2日 護国神社例大祭(護国神社)

12日 正副会長会議(護国神社)

12日 語り部事業(護国神社)

12日 戦没者記念館運営企画委員会(護国神社)

20日 千羽づる奉納事業(兵庫県姫路護国神社ほか)